



歯ならびのお話し 1

No39

昔も今も

旧約聖書には「あゝなんじ美わしきかな、なんじの歯は毛を剪りたる牝羊の浴場より出たるが如し云々」とあるように、白い清潔な歯がきれいにならんでいることを



美と健康の象徴であると考えていました。また、非業の死を遂げた楊貴妃をしので、唐の詩人杜甫が作った詩には「明眸皓齒」という語があり、これも美しく澄んだ目もと、白く美しい歯ならびは、美と健康の象徴という意味を示しています。美や健康の条件として、歯ならびが良いということは古今東西共通したものかもしれません。

すでに、紀元の初めのころにローマの医師は乳歯の脱落したあとに萌出する永久歯が悪い位置にあるような場合には、なんと指圧でその歯を正しい方向に矯正することを試みていたそうです(注:実際には、一時的に指で力を加えることを何回か繰り返しても歯はほとんど動きません。また、あまり強い力を加えると歯にダメージが加わることがありますのでむやみに行わないでください)。また、紀元前1000年の出土品からも矯正装置が発見されているそうです。昔から歯に力を加えると動くことがわかっていたんですね。今のような器具を使ようになってから歯ならびを治すようになったのは、ここ300年ちょっとのことで、太古の昔から不揃いな歯ならびや受け口、出っ歯などは人々を悩ませ、2000年以上も前から少しずつ試行錯誤していたことになりそうです。今のような器具を使ってからは、最初は上と下それぞれの歯ならびをよくすることだけに注目し、主に歯の並んでいる場所を拡げてなおすことがおこなわれていましたが、次第に上と下のあごの位置を含めたかみ合わせ、さらには口元についての重要性が注目されてきました。成長期では、なんとある程度上あご、下あごの成長のコントロールが可能なのです。(成長期を過ぎると手術と歯科矯正治療を併用した治し方があります)

昔、北米インディアン多くの部族は、ゆり板に寝かした赤ん坊の額を板で抑えて固定し頭骨をのっぺりした形に変形させていました。



彼らの間では、額が平らなほうが美しいと考えられていたみたいです。

このように骨も、持続的に力を加えることにより、成長の抑制、促進ができるんですね。

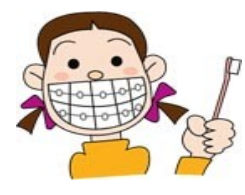
もちろん、口元はあごの骨、前歯、くちびるの形状で決まってきます。したがって、あごや歯をコントロールすることによって口元も変わってくるのです。

歯ならびは変わらないの？

ところで、逆に、歯には毎日いろいろな力がかかっているので動いても不思議ではないですよ？

そうです。歯ならびは、常に微妙に変化しています。では、なぜわたくしたちはおおよそ同じ歯ならびを保っているのでしょうか？それは、舌という筋肉とくちびるや頬という筋肉でいつも押し合いっこしているためなんです。舌は後ろから前へ、くちびるは前から後ろへ歯をおしているんですね。そのために、歯ならびは舌の形にならんでいるんですね。もちろん、歯のならぶ骨という枠の中ですけど・・・わたくしたちは、知らず知らずのうちにみな常にプチ矯正をしているようなものですね。

昔から現代に至るまで変わることのない美と健康の条件「きれいな歯と歯ならび(かみ合わせ)」がおかしいなと思ったら、まず歯医者さんにご相談されてみては・・・



社団法人

柏歯科医師会

Http://www.kamukamu.or.jp

Email:kda@cc.rim.or.jp

